

神野山の天狗

こうのやま

てんぐ



大和高原の東部、山添村にひとときわ秀麗な姿を見せる神野山。標高、約六二〇メートル。山の東北側に、奇観で知られる鍋倉溪がある。実に不思議な光景で、黒々とした大小の岩が、山腹の谷に沿って累々と川のよりに連なっているのだ。その昔、この山に天狗が住んでいた。

かな美しい山容で、そこにも天狗が住んでいた。ある時、ふとしたことから両方の天狗たちが大げんかを始めた。怒った青葉山の天狗は、山の岩や、木、草をどんどん神野山に投げつけた。そのうち、神野山は草木でいっぱいになり、岩は鍋倉溪をつくった。勝った神野山の天狗たちは、やんやの声をあげて大喜び。山麓の里人たちも喜び、山に登って天狗たちにお酒やご馳走をたくさんふるまったという。

鍋倉溪は、長さ約六五〇メートル、幅二五メートル。地質は角閃斑岩。すすけた鍋底を思わせるのが名の由来とか。見上げると、視界のずっと上まで続く黒い岩の川。その両側にはヤマザクラ、クヌギ、コナラなどの新緑の若葉がおい立つ。岩に耳を近づけると、奥底から、あつ、やつぱり、聞こえる。「コロコロ、シュルツ」。伏流の水音だ。軽やかで、心地よい。岩の隙間がたまたま水琴窟のようになっているのだろうか。山頂付近は、広々としたツツ



鍋倉溪。岩は青葉山から飛んできたものという伝説が残る



ツツジが満開になる五月。山は多くの観光客で賑わう

神野山へは…
お車は名阪国道神野ICから。バスは神野口バス停または北野バス停から徒歩で。



ジの群落。古くから、ツツジの咲く九十八夜の頃、里入らは、かつて、山の天狗にお酒やご馳走を捧げたように、「神野山登り」をしたという。今も、紅色の花が満開になる五月、山は多くの観光客で賑わう。